

一橋大学の創立記念日は九月二十四日です。銀座尾張町二丁目二三番地に商法講習所を開業することを東京会議所から東京府知事に届け出たのが明治八年（一八七五）のこの日でした。

一橋大学学園史資料室は、西キヤンパスの時計台棟一階にあります。本学の学園史に関するさまざまな資料を収集・整理・保存し、調査研究の利用に供しています。

開室日と利用時間

平日 9時～12時
13時～17時

〒186-8602 東京都国立市中2-1-1
一橋大学学園史資料室
Mail: lib-gs.g@ad.hit-u.ac.jp
TEL: 042-580-8292
Fax: 042-580-8251
(学園史資料室宛と明記してください)
<https://universityarchives.lib.hit-u.ac.jp/>



照会への調査回答

学内および学外からのお問合せに、資料に基づいて回答しています。学園史資料室の所蔵資料だけでは不足なときは、学内他部署の事務文書を臨時に閲覧させていただきます場合もあります。学園史資料室の職員では調査方法の見当もつかず、学内の研究者等に相談しご協力を仰いだ案件もありました。

照会頻度の高いのは、建築物に関することや、本学関係者の人物情報についてです。最近の事例には次のようなものがありました。（敬称略）

● 森有礼（もりありのり）（弘化四年七月一三日～一八四七年八月二三日）
日）
文部大臣、商法講習所の創設者）およびその最初の妻・広瀬常の家紋はどのようなものだったか？

● 「英語担当の外国人教師として」「明治三三年度に米国人D・B・スプーナー（D.B. Spooner）が在任していた」（『一橋大学学問史』一九八六年、一〇六五頁）
David Brainerd Spooner（1879-1925）は、離日後どこへ行き何をしていたか？

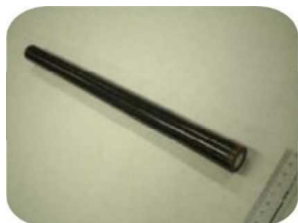
資料の閲覧

閲覧利用にあたっては、なるべく事前にご連絡をお願いいたします。お求めの資料の所在や状態を確認し、閲覧の可否を個別に判断させていただきます。資料によっては公開できない場合があります。あらかじめご了承ください。



● 絵葉書「眞也月報」第十一集「校歌ローマンス」の内、東京高等商業学校のイラストで、向かって右の

学生が左手から提げている棒は何なのか？



簿記棒

▶学生が手に提げている棒は「簿記棒」と推測される。「帳簿の赤い罫線を引くために使われていた棒。丸定規、ルーラーともいう。」（平成15年度一橋大学附属図書館企画展示「複式簿記がやってきた！：明治初期簿記導入史と商法講習所」パンフレット https://www.lib.hit-u.ac.jp/images/2020/01/kikaku2003_pamphlet.pdf

- 『如水会々報』一〇九五号（令和四年（二〇二二）二月）の口絵でインシュタインの後ろに写っているのは本学の教員か？



長島重悦「アインシュタイン博士招待記」『一橋』第18号（大正12年3月1日発行）136-137頁に、「下野学長代理日本語にて紹介の辞を述べられ、次で英語部理事河内寛次氏独文の歓迎文を音吐朗々と読む。」「終りて福田教授明快なる訳を施さる」と記述されているので、下野直太郎と福田徳三の写真を、東京商科大学高等商業科卒業記念写真帖 SOUVENIR 1923 [大正12年3月]に同定して回答しました。

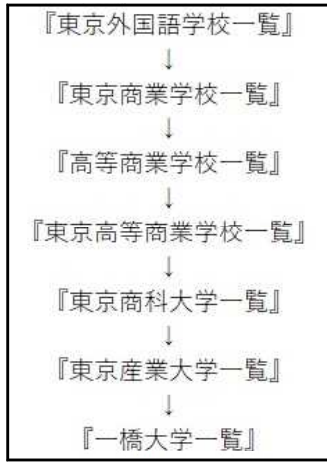
- 佐藤彦四郎（一八八六〜一九三八年）（明治四一年（一九〇八）東京高等商業学校本科卒業、南方熊楠に次ぐ多数の投稿記事をイギリスの学術雑誌 *Notes & queries* に掲載）の経歴について
- 中根なかねまがき・しげし 蕃（明治二年（一八八八）八月一三日〜

一橋大学全学連行動委常任委 一橋大学民主化行動委書記局「16日朝、機動隊200小平に侵入！佐ト訪米抗議／機動隊侵入糾弾／「全斗委」粉砕・解体／全ての学友は、11・17集会に総結集せよ！」など数十点

主な所蔵資料

紙媒体の冊子資料のうち、残部に余裕のあるものについては、「ご希望のかたに無償でお譲りすることもできます。また、主要資料を HERMES-IR（一橋大学機関リポジトリ） <https://hermes-ir.lib.hit-u.ac.jp/ir/> の「学園史関係資料」で全文公開しています。

●学校一覧



HERMES-IR
二次元コード

- 昭和五二年（一九七七）文部省技師、時計台棟をはじめ、国立キャンパス（兼松講堂以外）の建物（設計）の経歴について
- 尹起重ユン・ギジョン（一九三二年二月一九日〜）ユン・ソンニョル（尹錫悦韓国大統領の父）が一橋大学に在籍した記録について

寄贈資料から

- 最近ご惠贈いただいた資料には、たとえば、次のようなものがあります。
- 島村高嘉『回想の中山伊知郎…経世済民と實事求是』、二〇一三年
- 針葉樹会編集『一橋山岳部 百年 1922〜2022』一橋山岳会、二〇二二年
- 100周年記念誌編集委員会編『一橋大学ラグビー部100周年記念誌』一橋大学ラグビーフットボールOBクラブ、二〇二二年
- （山中篤太郎先生の南方調査アルバム）『泰（タイ）より馬来（マレー）へ』昭和一七年
- 『爪哇（ジャワ）紀行』昭和一八年
- 昭和四四年（一九六九）（学生運動のアジビラ）

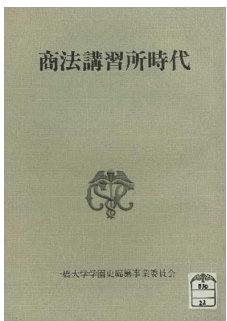
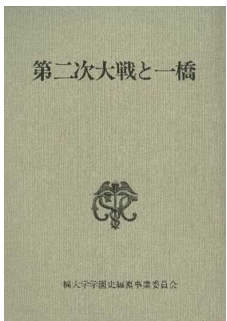
誌名の変遷を並べるだけで大まかな大学史が想像されます。各年度の『学校一覧』の巻末には各キャンパスの建物配置図が添付されており、関東大震災後の移転に際して国立へのキャンパス移転の順番などがわかります。

- 『一橋大学年譜』
 - I 「明治8年8月〜昭和21年3月」
 - II 「昭和20年1月〜昭和63年12月」

<https://doi.org/10.15057/da.5843>

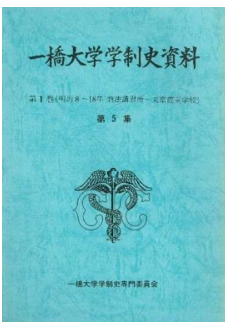
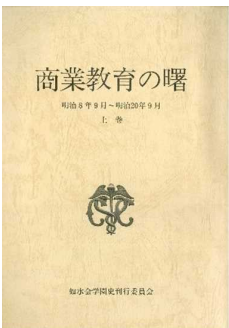
- 『一橋新聞』
 - 「復刻版 一橋新聞記事・執筆者索引」
- 戦前の東京商科大学の学生自治会は、教職員も含めた全学的組織であり、「一橋会」と呼ばれていました。その機関紙は『一橋会雑誌』←『一橋』←『一橋時報』←『一橋新聞』と変遷してきました。その『一橋新聞』の復刻版が不二出版から刊行されており、その創刊号（大正一三年）から六九二号（昭和三年）までが多少の欠号がありつつも含まれています。

- 一橋大学学園史編集委員会編『一橋大学学問史…一橋大学創立百年記念』国立、一橋大学学園史編集委員会、一九八二年
- 「改訂版」一橋大学学園史刊行委員会編『一橋大学学問史…一橋大学創立百年記念』国立、一橋大学、一九八六年
- 一橋大学学園史編纂事業委員会籠城事件史専門委員会編『一橋籠城事件（昭和6年10月）』東京、籠城事件を偲ぶ会、一九八二年九月
- 如水会史専門委員会編『如水会の歩み』東京、如水会、一九八二年九月
- 一橋大学学園史編纂事業委員会編集『第二次大戦と一橋』東京、一橋大学学園史編纂事業委員会、一九八三年三月三十一日



- 一橋大学学園史編纂事業委員会編集「一橋大学学園史資料」東京、一橋大学学園史編纂事業委員会、一九八三年三月三十一日
- ・ 渋沢輝二郎執筆『商法講習所時代』
- ・ 小島慶三執筆『申西事件史』
- ・ 松本秀夫執筆『大正デモクラシーの開花期のころの学園』
- ・ 『一橋のゼミナール』
- ・ 『一橋専門部教員養成所史』への回想…追補と思いつき
- ・ 『戦後と一橋』
- 一橋大学学園史編纂委員会編集・発行、一九八四～一九八六年
- ・ 『花開く東京商科大学予科と寮…座談会』一九八四年六月一日
- ・ 『一橋大学の未来像』一九八四年八月三十一日
- ・ 『一橋のゼミナール 戦後編』上、下、一九八五年三月三十一日
- ・ 『一橋の学風とその系譜』1、2、一九八五年七月一日、一〇月十五日

- 『一橋会資料集』明治35年～大正9年3月 一九八六年六月一日
- 「一橋大学百年通史稿本」東京、如水会学園史刊行委員会、一九八七～一九九一年
- ・ 小島慶三著『日本の近代化と一橋』明治20年10月～大正9年3月 一九八七年七月三〇日
- ・ 木村増三著『昭和7～11年の東京商科大学』一九八七年十一月三〇日
- ・ 依光良馨著『大学昇格と籠城事件』大正9年4月～昭和6年12月 一九八九年三月三十一日
- ・ 丸山泰男著『戦争の時代と一橋』一九八九年三月三十一日
- ・ 細谷新治著『商業教育の曙』明治8年9月～明治20年9月』上巻、下巻、一九九〇年十二月一日、一九九一年三月三〇日



- 『一橋大学学制史資料』
- （※発行者は、一九八二～一九八三年刊行の第一集）第八集が一橋大学学園史編集委員会、一九八六～一九九四年刊行の第九集～第12集が一橋大学学園史刊行委員会）
- ・ 一橋大学学制史専門委員会「編」『一橋大学学制史資料』第一巻（第五集）「明治八～十八年 商法講習所～東京商業学校」国立、一橋大学学園史編集委員会、一九八三年八月二五日
- ・ 一橋大学学制史専門委員会「編」『一橋大学学制史資料』第二巻（第三集）「明治十九～三十四年 東京商業学校～高等商業学校」国立、一橋大学学園史編集委員会、一九八二年十一月三〇日
- ・ 一橋大学学制史専門委員会「編」『一橋大学学制史資料』第三巻（第四集）「明治三十五～四十二年 東京高等商業学校」国立、一橋大学学園史編集委員会、一九八三年三月三十一日
- ・ 一橋大学学制史専門委員会「編」『一橋大学学制史資料』第四巻（第六集）「明治四十三～大正三年 東京高等商業学校」国立、一橋大学学園史編集委員会

員会、一九八三年七月三〇日

- ・一橋大学学制史専門委員会「編」『一橋大学学制史資料』第五卷(第二集)「大正四〇九年 東京高等商業学校」国立、一橋大学学園史編集委員会、一九八二年七月三〇日

- ・一橋大学学制史専門委員会「編」『一橋大学学制史資料』第六卷(第一集)「大正九〇十二年 東京商科大学」国立、一橋大学学園史編集委員会、一九八二年三月三〇日

- ・一橋大学学制史専門委員会「編」『一橋大学学制史資料』第七卷(第八集)「大正十三〇昭和二十年 東京商科大学」東京産業大学」国立、一橋大学学園史編集委員会、一九八三年九月一〇日

- ・一橋大学学制史専門委員会「編」『一橋大学学制史資料』第八卷(第七集)「昭和十五〇五十七年 経済研究所」国立、一橋大学学園史編集委員会、一九八三年八月三一日

- ・一橋大学学園史刊行委員会編『一橋大学学制史資料』第九卷(第九集)「昭和二十〇二十八 東京産業大学」東京商科大学」一橋大学」国立、一橋

大学学園史刊行委員会、一九八六年二月二八日

- ・一橋大学学園史刊行委員会編『一橋大学学制史資料』第十卷その一(第十集)「昭和二十八〇五十年 一橋大学」国立、一橋大学学園史刊行委員会、一九八七年一〇月三〇日

- ・一橋大学学園史刊行委員会編『一橋大学学制史資料』第十卷その二(第十一集)「昭和二十八〇五十年 一橋大学」国立、一橋大学学園史刊行委員会、一九八八年一月三〇日

- ・一橋大学学園史刊行委員会編『一橋大学学制史資料』補遺(第12集) 国立、一橋大学学園史刊行委員会、一九九〇年一月三〇日

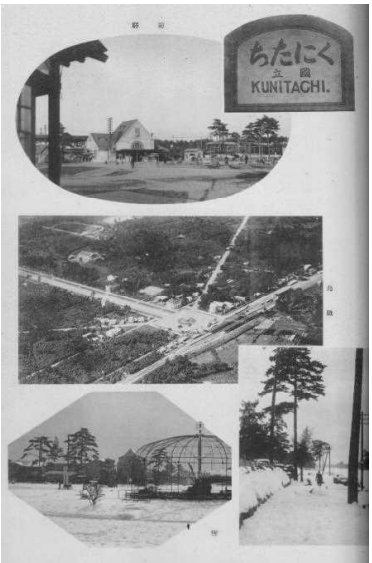
- ・一橋大学学園史刊行委員会編『一橋大学学制史資料』補遺別冊(第12集)「1」「明治19年〇昭和25年 授業科目・担当者一覧」国立、一橋大学学園史刊行委員会、一九九一年三月三一日

- ・一橋大学学園史刊行委員会編『一橋大学学制史資料』補遺別冊(第12集)「2」「昭和24年〇昭和50年 授業科目・担当者一覧」国立、一橋大学学園史刊行委員会、一九九一年三月三一日

- ・一橋大学学園史刊行委員会編『一橋大学学制史資料』補遺別冊(第12集)「3」「附属商学専門部・附属商業教員養成所授業科目・担当者一覧」国立、一橋大学学園史刊行委員会、一九九四年三月

●卒業アルバム

キャンパス内の建物や、昔の周辺地域の風景写真も載っています。



東京商科大学本科
卒業アルバム1931年より

年史』等、多数の周年史を作成してきましたが、それらは、例えば「学園史刊行委員会」、のような臨時の組織で作成されていました。学園史資料を収集・整備する恒常的な組織として、「一橋大学創立150年史準備室」(初代準備室長江夏由樹特任教授)が附属図書館に設置されたのは、平成二六年(二〇一四)三月一九日のことです。さらに、同年四月、小平キャンパスに、古い貴重資料の保存を目的とする「小平研究保存図書館」が創設されると、そこに、「一橋大学創立150年史準備室長室」を置き、小平で学園史資料を整備する環境を整えました。令和二年(二〇二〇)四月一日には、150年史準備室を包含する形で「学園史資料室」および学園史資料係が設置され、附属図書館長が学園史資料室長を兼ねることになりました。将来の文書館設立を見据え、令和五年(二〇二三)一月からは、学園史資料係は総務部広報・社会連携課所属となりました。

一橋大学創立150年史準備室ニューズレター

『一橋大学創立150年史準備室 newsletter』を毎年

学園史資料室の由来

一橋大学は創立以来、『一橋五十年史』、『一橋大学問史』、『一橋大学学制史資料』、『一橋大学百二十

発行しています。HERMES-IR（一橋大学機関リポジトリ）の Special Collections で全文を公開しています。各号で、「Link to the whole of the issue（当該巻号全体へのリンク）」をクリックすると、その号全体をひとつのファイルにまとめた pdf をダウンロードできます。



学園史資料室入口



キャンパス空撮

【参考文献】

- 大場高志「一橋大学の創立記念日について（資料紹介）」『一橋大学創立150年史準備室 newsletter』No.3、五二～六六頁、二〇一七年三月 (<https://hdl.handle.net/10086/53277>)
- 岸田耀「尾張町二丁目鯛味噌屋考」『銀座文化研究』八、四～二七頁、一九九四年
- 福田名津子「商法講習所尾張町仮校舎「鯛味噌屋2階説」の再検証」『一橋大学附属図書館研究開発室年報』3号、三～二二頁、二〇一五年三月 (<https://hdl.handle.net/10086/27545>)
- 酒井雅子「商法講習所創立と森有礼」『一橋大学創立150年史準備室 newsletter』No.8、一三〇～一四九頁、二〇二二年三月 (<https://doi.org/10.15057/74204>)
- 伊藤龍也「怪獣たちの棲み家——一橋大学——（洋風建築への誘い第40回）」『多摩のあゆみ』一五一号、五四～五九頁、二〇二三年八月
- 酒井哲「怪獣と共棲すること（建物雑想記No.35）」『多摩のあゆみ』一五一号、六〇～六三頁、二〇二三年八月
- 「伊東忠太と芸術としての建築、オリジナリティのある建築」『T Z（ほんの窓）』第一〇号、二〇〇六年二月一日 (<https://www.lib.hit-u.ac.jp/about/reading/tz/>)

木方十根「国立（くにたち）大学町」における東京商科大学の震災復旧事業について：土地交換の過程と大学用地の都市設計上の位置づけ」『日本建築学会計画系論文集』六八（五七四）、一八五～一九一頁、二〇〇三年 (https://doi.org/10.3130/aija.68_185_6)

堀勇良著『日本近代建築人名総覧（増補版）』中央公論新社、二〇二二年

一橋大学「一橋大学の概要」<https://juken.hit-u.ac.jp/about/overview/>
「沿革」https://www.hit-u.ac.jp/guide/data/pdf/data_j_3.pdf

（「データ集」<http://www.hit-u.ac.jp/guide/data/>の「10 資料」より）
「創刊から百号まで（上）震災に経験した新聞の有難味 四散せる同人を連絡した本紙の前身「一橋時報」」一橋大学学制史専門委員会「編」『一橋大学学制史資料』第7巻（大正13～昭和20年 東京商科大学～東京産業大学）、国立、一橋大学学園史編集委員会、一九八三年、二八三～二八五頁

大場高志「一橋大学の学園史刊行の歴史」『一橋大学創立150年史準備室 newsletter』No.1、三〇～三五頁、二〇一五年三月 (<https://hdl.handle.net/10086/50251>)

田崎宣義「関東大震災から国立移転が決まるまで（一橋の今昔（3））」『一橋大学創立150年史準備室 newsletter』No.8、一〇七～一一九頁、二〇二二年三月 (<https://doi.org/10.15057/74203>)